2025年 新春座談会

問広報課☎724-2101

新春座談会の全文はこちら▶

活動のきっかけは だれかの力になりたい

石阪　明けましておめでとうございます。Leinaさんはシンガーソングライター、玉置さんはSNSでの発信やモデルとして活躍していますが、どのように活動を始めたのですか？

Leina　作詞作曲を始めたのは2019年の3月くらいで、中学2年生の時でした。インスタグラムに投稿していたら音楽業界の方の目に留まって、同年11月にインディーズデビューをしました。歌を作り始めたのは、南地域にある子どもセンターの「ばあん」にギターがあって、職員さんに弾き方を教えてもらったことがきっかけです。「ばあん」に通い始めたのは小学1年生から。おもちゃもあるし、音楽スタジオだってあるし、知らない子と友達になれる、なにより職員さんが温かくて、夢のような場所でしたね。音楽は、孤独を感じるたびに私に寄り添ってくれました。だから私も音楽でだれかに寄り添いたいという思いが音楽活動の軸になっています。

玉置　私もスタートはSNSでの発信です。高校に入学するタイミングで自分の障がいのことなどを投稿し始めました。私自身が他の障がい当事者のSNSを見て力をもらっていたことや、母が私の病気が分かった時に障がい当事者のSNSを見て前を向けたと話していたこともあって、自分もだれかの力になれたらいいなと思ったのです。ちょうどその頃、障がい者モデルのオーディションを見つけて、モデルという人目に触れる場所にいるからこそ届けられることもあるのではないかと考え応募しました。

昨年はSNSやモデルの活動以外にも、教育関連のシンポジウムに登壇したり、都立高校を訪問して車椅子の体験をしてもらうようなインクルーシブ体験プログラムを立ち上げたりと、新しいことに次々と挑戦した年でした。

自然が豊かでリラックスできる だからまちだが好き

石阪　玉置さんもLeinaさんも町田市出身なので、町田の好きなところについても教えてください。

玉置　お気に入りのスポットは、高校の通学路にあった町田シバヒロです。友達と学校帰りに寄って町田シバヒロでおしゃべりをして帰っていたのは高校時代の楽しい思い出です。それから、駅前にある商業ビルのプリクラコーナーも好きで、高校生の時は通い詰めましたね。町田は駅周辺に商業ビルがたくさんあって、欲しいものがなんでもそろいますし、ちょっと離れれば自然が豊かで、大きい公園もたくさんあるところが魅力です。

Leina　その駅前のビルには私もよく通っていました。人気の服屋さんもあって町田の女子高生の聖地ですよね。公園や緑が多くて、ゆったり過ごせるのは町田のいいところだと私も思います。そうそう、町田の人はだいたい町田が好きなところも素敵ですよね。

石阪　Leinaさんは、「ばあん」について触れていましたね。「ばあん」のような子どもセンターが各地域にあって、中学生や高校生にも来てもらえるよう夜9時まで開館しているのは町田ならではの取り組みです。玉置さんが言うように、公園や芝生はリラックスできるし、伸び伸びした気持ちになれますよね。2023年に完成した忠生スポーツ公園には、町田シバヒロの倍以上の約1万3000平方メートルの広大な芝生広場があります。町田には、木登りや穴を掘っての泥遊び、基地づくりなど、子どもが自由に遊びを考えて楽しめる冒険遊び場、いわゆるプレイパークも常設型が5か所あります。子どもから大人まで自然を身近に感じて暮らせるのは町田の大きな魅力でしょうね。

居場所があることが 安心感につながっていく

石阪　昨年5月に「町田市子どもにやさしいまち条例」が、10月に「町田市障がい者差別をなくし誰もがともに生きる社会づくり条例」が施行されました。簡単な言葉で説明すれば、これらの条例は、子どもや障がいのある方々の居場所を大切にする条例です。居場所とは心のよりどころになる場所で、“みんなにやさしいまち”とはだれにとっても居場所があるまちだといえるでしょう。私が子どものときに夢見ていたのは、自由に空を飛ぶこと。なににも縛られたくなかったし、とにかく自由に憧れていたんです。それは今でも変わらず、人は自由に生きることが最も優先されるべきだと思っています。2つの条例の究極の目的は、子どもや障がいのある方が、自由に生きるための選択肢をたくさん用意すること。いろいろなタイプの居場所、人と出会える機会、活躍できるチャンスが豊富にあれば、自分にぴったりなものが見つかるのではないでしょうか。

Leina　確かに、私にとって「ばあん」は大切な居場所でした。デビュー曲は「ばあん」で作った作品です。そういえば、「ばあん」には子どもによる委員会があって、子どもたちが自らお祭りを企画していました。ゲームのアイデアを出したり、工夫を凝らしたり、みんな輝いていましたね。

石阪　任せると力を発揮してくれますよね。2023年度から、町田市では「まちだ若者大作戦」という事業を実施しています。子どもや若者の「やりたいこと」を市が後押しする事業で、場所や補助金は提供するし、必要ならお手伝いもするけれど、余計な口出しはしませんというのが基本スタンスです。高校生世代から25歳までの若者が町田薬師池公園四季彩の杜西園の展望広場で野外音楽フェスを開催して大盛況でした。広報まちだの特集号を若者の手で作る「広報まちだジャック計画」も実施しました。記事のアイデア出しから、取材、原稿執筆、デザインまですべて任せて大丈夫なのか不安がありましたが、ふたを開けてみれば若い人たちの自主性や感性が発揮された、とても面白い広報紙が完成しました。

玉置　私の居場所になったのは、高校の友人たちとの関係です。中学生までは引っ込み思案で、自分の障がいをオープンにすることに抵抗がありました。でも高校に入って気を使いすぎずに付き合える人間関係をつくれて、そこが心のよりどころになりました。例えば、今までだったら諦めていた階段しかない2階にあるお店でも、「ちょっとお願い」とみんなに支えてもらって上がり、カフェを楽しんだり、頼れる友達がいることで世界が広がった感じがします。

石阪　そう、居場所の在り方って1つではないですよね。場所だけでなく、人との関係であることも多い。だからこそ人と出会える機会も含めて、できるだけたくさんの選択肢があることが大切なのだと思います。